

2015年2月4日

(ご参考)

マツダ株式会社
2015年3月期 第3四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

執行役員
藤本 哲也

1. 総括

2015年3月期第3四半期累計実績の総括です。

引き続き好調なSKYACTIV車両の販売貢献により、グローバル販売台数は対前年5%増の100万3千台となりました。

財務実績は、売上高は2兆1,936億円、営業利益は1,520億円、当期純利益は1,315億円となりました。新型Mazda2/デミオは、山口県の防府工場に続き、タイ、メキシコの3工場で生産を同時に立ち上げ、日本、オーストラリアより市場導入を開始しました。

また、メキシコ工場では7月の2直化移行に続き、エンジン機械加工工場の稼働を10月から開始しました。

2015年3月期通期のグローバル販売台数は対前年5%増の140万台の見通しです。

通期の利益見通しは、営業利益2,100億円、当期純利益1,600億円と変更はありません。

CX-5、Mazda6/アテンザは大幅な商品改良を実施し商品力を強化しました。

また、新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」を日本から順次グローバルに導入を開始します。

生産面では、タイの新オートマチックトランスミッション工場が計画通り1月から量産開始しました。

また、新エンジン工場の建設を発表するなど、グローバル生産体制の再構築も順調に進捗しています。

2. 2015年3月期 第3四半期累計実績

グローバル販売台数は対前年5%増の100万3千台でした。引き続き好調なCX-5と、グローバルで導入・展開が進んだMazda3/アクセラが販売を牽引しました。

地域別では、需要が低迷した日本、タイでの落ち込みを北米・欧州など販売が好調な市場でカバーし、全体では前年を上回る販売を達成しました。

第3四半期累計の連結売上高は対前年13%増の2兆1,936億円となりました。

営業利益は1,520億円と前年同期に対し274億円の改善となりました。これは主に、SKYACTIV車両による台数・構成の拡大や継続的なコスト改善等が寄与したものです。

経常利益は1,605億円、税引前利益は1,609億円、当期純利益は1,315億円です。

為替レートは平均で 1ドル107円、1ユーロ140円と、前年に比べ、ドル、ユーロ共に8円の円安となりました。

各マーケットの状況について説明します。

まず日本では対前年12%減の14万3千台の販売となりました。

9月に導入した新型デミオの好調な販売により、第3四半期の販売は対前年2%増と反転しています。今後は、大幅商品改良のアテンザ、CX-5や新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」の投入による販売拡大を図っていきます。

北米では、対前年11%増の32万台の販売となりました。

米国の販売は好調で、対前年11%増の22万8千台です。

厳しい競争環境が続く中、CX-5、Mazda6、Mazda3が好調を維持しノンフリート販売での台数成長を実現しました。ブランド価値向上にむけ、正価販売方針を継続します。

メキシコでは、対前年23%増の3万3千台の販売となり過去最高の販売台数を達成しました。

欧州では、対前年16%増の16万7千台の販売となりました。

CX-5は引き続き好調を維持しMazda3も販売拡大に大きく貢献しています。

欧州の販売は、全需の伸びを大幅に上回り好調を維持しています。主要マーケットであるドイツでは対前年14%増の3万7千台、英国では対前年14%増の2万5千台と引き続き好調です。

中国では、対前年10%増の15万6千台の販売となりました。

新型Mazda3、新型Mazda6、CX-5などのSKYACTIV車両の販売が堅調に推移しています。

暦年では、対前年13%増と4年ぶりに前年を上回る販売実績を達成しました。

その他市場では、ほぼ前年並みの21万7千台の販売です。

オーストラリアでは、需要が弱含む中、対前年5%減の7万3千台の販売となりました。CX-5は引き続きSUVセグメントでの販売台数1位を獲得しており、暦年でのメーカー別販売台数は3位を維持しました。

ASEANでは、タイでの需要減の影響が大きく、対前年3%減の5万6千台となりました。

タイでは、CX-5、Mazda3などSKYACTIV車両の販売は好調です。また、第4四半期は新型Mazda2の導入により販売を拡大していきます。

引き続き、マレーシア、ベトナムは好調な販売実績です。

営業利益の前年に対する改善額274億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、SKYACTIV車両の販売拡大およびミックス改善により388億円の改善となりました。

為替は、USDドルで102億円、ユーロで67億円、その他通貨は20億円と合計で189億円の改善です。

変動コスト領域では、コスト改善の推進により138億円の改善です。

販売費用は、マツダのコーポレートブランドや新型Mazda2の広告宣伝活動強化により、119億円の費用増となりました。

その他固定費は、開発費、メキシコ工場の固定費等の増加により322億円の費用増です。

3. 2015年3月期 見通し

グローバル販売台数につきましては、10月公表に対して、需要動向および販売環境の変化を踏まえ、通期見通しを2万台引き下げ140万台に修正します。

北米や中国など競合環境の厳しい地域を中心に目標を引き下げますが、これまでどおり、グローバルで正価販売方針を維持していきます。

通期の売上高は2兆9,800億円、営業利益は2,100億円、当期純利益は1,600億円の見通しです。各国の需要動向および販売環境や新興国通貨安、欧州市場の経済動向など事業環境の変化等を織り込み、通期利益見通しは据え置きます。

前年からの営業利益の改善額279億円の要因を説明します。

台数・構成では、Mazda3の通年での販売貢献や正価販売等の成果により541億円の改善となる見通しです。

為替は、USDで167億円、ユーロで38億円の改善、その他通貨で55億円の悪化と合計で150億円改善の見込みです。

コスト領域では、モノ造り革新によるコスト改善の推進等により166億円改善の見込みです。

販売費用は、新商品の導入やブランドも含めた広告宣伝活動の強化により150億円増加します。

また、その他固定費は、次世代技術への開発投資強化やメキシコ工場など海外子会社の固定費増等により428億円増加する見込みです。

構造改革プランは順調に進捗しています。

まず、SKYACTIVによるビジネス革新ですが、コアモデルのラインナップ拡充をしています。

新型Mazda2/デミオは、防府、タイ、メキシコの3工場において同時に生産を開始しました。

販売は堅調に推移しており、日本でのディーセル比率は6割を超えています。

また、国内外でこれらのような数々の賞を頂くなど、商品・技術において高い評価を獲得しています。

次に、Mazda6/アテンザ、CX-5に大幅な商品改良を実施し、あらゆる領域の熟成、深化を図りました。マツダの最新のデザイン、技術、装備を全車に展開していくことで、商品力を強化し高い競争力を維持してまいります。

また、Mazda6/アテンザ、CX-5、Mazda3/アクセラは米国道路安全保険協会より「2015トップセーフティピックプラス」に認定されるなど、安全性に関して高い評価を獲得しています。

また、新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」を導入します。

SKYACTIV技術と魂動デザインを全面採用したCX-3は、成長著しい小型SUV市場にマツダの新たな基幹車種として投入します。

12月より広島本社工場での生産を開始し2月末より日本から順次グローバルに展開します。

年間の販売台数は15万台を計画しています。

最後に、グローバル生産体制の再構築についてご説明します。

メキシコ工場は操業開始以来11カ月で累計生産台数10万台を達成しました。

10月より新型Mazda2の生産を開始し、またエンジン機械加工工場も稼働を開始しました。

2016年3月期の年間生産能力は、これまで発表していた23万台から上乘せし25万台となる見通しです。

タイの新オートマチックトランスミッション工場では計画通り1月より量産を開始いたしました。年間生産能力は40万基を計画しています。

またタイでは、新エンジン工場を新たに建設し2016年3月期第3四半期より「SKYACTIV-D 1.5」の量産を開始する計画です。

4. まとめ

SKYACTIV車両の販売は引き続き好調で、第3四半期累計では対前年5%増の100万3千台となりました。営業利益は1,520億円、当期純利益は1,315億円と通期計画に対して順調な進捗です。

通期のグローバル販売計画を140万台に修正します。利益見通しは、営業利益2,100億円、当期純利益1,600億円に据え置きます。

新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」を日本より順次グローバルに展開します。

生産面では、タイの新オートマチックトランスミッション工場が計画通り1月から量産を開始しました。

また、新エンジン工場の建設を発表するなどグローバル生産体制の再構築も順調に進捗しています。

構造改革プランのやり切りと合わせブランド価値の向上を図り、持続的成長に向けて取り組んでまいります。

以上